

算 数 通 信

テーマ：【高学年の児童が望んでいる授業は】

「算数科の楽しさを味わう授業改善」アンケート（7 月実施）では、31 名の先生方と町内小学生のみなさんに回答をいただきました。お忙しいなか、ご協力有難うございました。

9 月 4 日（水）当事業の連絡協議会有り、各校の先生方とともに、結果や今後の課題について共有させていただきました。今号では、児童アンケートについて、【課題として浮かぶこと】を書かせていただきました。

【児童アンケートの結果】

（単位：％）

No	質 問 項 目	1～3 年	4～6 年
①	算数の授業は好きですか？	80.6	68.4
②	算数の学習内容はわかりますか？	88.1	89.7
③	算数の授業では、友だちといっしょに考えたり、教え合ったりしていますか？	92.9	93.5
④	算数の授業では、新しい問題に出会ったとき、「今まで習ったことは使えないか」と考えることはありますか？	――	80.5
⑤	算数の授業では、自分に合った課題や学習方法を選んでいますか？	――	89.4
⑥	算数の授業では、考えをまとめるとき、考えの共通点は何かという見方をしてまとめていますか？	――	81.1

【気づいたこと】

- 1～3 年生
- ・「算数の学習内容が分からない」と感じている子どもの割合
学級に**約12%**存在する。（「先生の教え方がわかりにくい」という子どももいます。）

・「算数の授業は好きではない／どちらかと言えば」と感じている子どもの割合
学級に**約19%**存在する。
- 4～6 年生
- ・「算数の学習内容が分からない」と感じている子どもの割合
学級に**約 10%**存在する。

・「算数の授業は好きではない／どちらかと言えば」と感じている子どもの割合
学級に**約 22%**存在する。

- 1～6 年生
- ・「算数の授業では、友だちといっしょに考えたり、教え合ったりしている」と肯定的に回答する児童の割合が、1～3 年、4～6 年ともに **90%以上**と「高い」。

【アンケート結果から見える問題点】

- ・「算数の授業は好きです」の肯定的回答が低い傾向にある。

・その中で、「友だちといっしょに考えたり、教え合ったりする」ことと「自分に合った課題や学習方法を選んでいる」ことが、「算数の授業が好き」につながらない児童も存在している。

【課題として浮かぶこと】

（1）高学年がどのような算数科授業を求めているのだろうか？

「わかる」よりも「わかり方がどうだったか？」に重きが置かれた授業を求めているのではない。教師に説明されてわかることやプリントを何枚もやってできても、子どもたちの「好き」につながらない。やらされ感やノルマ感を感じることはどうも苦手だ。子どもたちが求めていることは、授業の中に、自由度や選択権あるいは協働性がある、自分たちで課題を解決している「実感」ではないだろうか？

（2）協働的な学びに参加できていない児童もいるのだろう

場を設けても、集団活動に参加できない児童は少なからず存在する。また、一人でじっくり考えることを好む児童もいるだろう。そのような児童が集団の中で発言することはかなりハードルが高い。そこで、「Canva」を活用するのはどうだろうか。問題を解いた後に数学的な見方や、発展的に考えた問題を投稿させるのである。

（3）数学的な見方・考え方を働かせること

既習事項を使うことができない子どもたちが存在します。そこで、「この問題をこの単元で習った『……』を使って解くことができないかを考えましょう。」という示し方を行う。

「好きこそものの上手なれ」。「好きなことはとことん追求できる」、だから「好きなことは伸びる」。さらにつき詰めると、思ってもみなかったものが生まれる原動力ともなる。

「算数科の楽しさを味わう」とは、何よりも「算数科が好き」と言える子どもを増やすところにあります。算数も国語やほかの教科も、まず子どもたちに好きになってもらう。そのために、我々はわかり方をどうするかを考えることを大事にしたいものです。